

子どもの心理的安全性を高め、一人一人の居場所を

つくる学級経営

—教科関連プログラムと常時活動プログラム通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 小学校教育指導系

倉地 泰輔

本研究は、友達のどんな意見でも前向きに受け止め、自分が思いついたどんな意見でも言うことができ、これからもずっとこの学級で生活したいと思える子どもの育成を目的とし、心理的安全性を高める学級経営の在り方を考察した。小学校4年生を対象に、道徳科と特別活動を要として各教科等を教科横断的に関連づけた「教科関連プログラム」と、朝の会で行う「常時活動プログラム」を並行して実践を行った。心理的安全性に関するアンケートの実践前後の比較および授業・生活場面の観察を通して検証を行った結果、子どもの発言量や意見交流が増加し、失敗や意見の違いを受け止め合う姿が多く見られるようになるなど、心理的安全性の向上が確認された。よって、教科横断的な学習と日常的な活動を継続的に位置づけた学級経営は、子ども一人一人が安心して自己表現でき、学級を自らの居場所と感じられる集団形成に有効であることが示唆された。